

平成27年4月14日(火)

統合物質創製化学推進事業

第6回統合物質シンポジウム 「次世代を拓く新物質創製化学」

(名古屋大学野依記念物質科学研究館 大講演室にて)

開催主旨：最終年度を迎える同事業の取りまとめを進める一方、物質創製化学研究の更なる推進に向けた新しい国際・産学官連携フレームワークである「統合物質創製化学研究推進機構」について議論する。

9:30-9:35 開会

9:35-10:05 研究発表-1 「階層的自己組織化によるソフトマテリアルの創製」

田中健太郎(名古屋大学・教授)

10:05-10:35 研究発表-2 「原子レベル制御による機能性酸化物材料の創製」

島川祐一(京都大学・教授)

10:35-11:05 研究発表-3 「担持金ナノ粒子の新たな機能、C-Hアリアル化と日本酒の品質向上」

徳永 信(九州大学・教授)

11:05-11:35 研究発表-4 「チタン上での物質変換」

高橋 保(北海道大学・教授)

11:35-13:00 昼食

13:00-13:30 研究発表-5 「エネルギーの有効利用のためのナノ材料開発」

山内美穂(九州大学・准教授)

13:30-14:00 研究発表-6 「固体触媒の特徴を活かした理想的な化学品合成」

清水研一(北海道大学・教授)

14:00-14:30 休憩

特別セッション 【物質創製化学の推進にむけて】

14:30-14:50 物質創製化学の国際的潮流・新機構の必要性

「未来の鍵をにぎる革新的ものづくり -物質創製」

巽 和行(名古屋大学 特任教授)

14:50-15:10 若手研究者の視点から見た物質創製研究や機構化への期待

「統合物質創製化学で挑む -高効率ペロブスカイト太陽電池」

若宮淳志(京都大学 准教授)

15:10-15:40 物質創製化学の最先端：新機構への期待

「理研 CEMS の取り組みと今後の課題」

川崎雅司(東京大学・理化学研究所 教授)

- 15:40-16:00 物質創製化学のための新しい研究支援  
(計算機支援) 「物質創製化学における計算化学の役割と将来展望」  
吉澤一成 (九州大学 教授)
- 16:00-16:15 休憩
- 16:15-16:45 研究発表-7 「カーボンナノチューブの内部空間を利用した新物質創製」  
大町 遼 (名古屋大学・助教)
- 16:45-17:15 研究発表-8 「シアノ架橋金属錯体を基盤にした錯体磁性体の開発」  
姜 舜徹 (九州大学・特任助教)
- 17:15-18:30 懇親会